府立刀根山高等学校
校長　無津呂　弘之

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「自ら未来を切り拓く、心豊かでたくましい人間を育てる」学校

１　確かな学力を身につけ、希望する進路を実現する学校

２　学校行事・部活動が充実した学校

３　基本的な生活習慣が確立され、安心して高校生活をおくれる学校

２　中期的目標

１　生徒の夢と希望を実現する進路指導を確立する

（１）充実したキャリア教育により、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考え、具体的な夢を描くことができる力を育成する。

３年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率をＲ９年度も 90％以上を維持する。（Ｒ４：95％ Ｒ５：96％ Ｒ６：95％）

（２）希望する進路の実現に必要な「チャレンジする意欲」や「粘り強く取り組む力」を育成する。

ア　「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

※国公立大学及び関西難関私立大学（関関同立・産近甲龍）への現役進学者数をＲ９年度も 100 人以上を維持する。（Ｒ４：104 人 Ｒ５：103 人 Ｒ６：103 人）

イ　総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際 SDGs についての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も育成する。

２　生徒が「確かな学力」を身につけられるよう教員の授業力向上を図る

（１）生徒が自身の進路実現と学力の関連性を理解し、自ら進んで学習に取り組む意欲を育成する。

ア　志望する大学等への進学に必要な学力を育成するため、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習時間の確保を促す。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」の肯定率をＲ９年度も 80％以上を維持する。（Ｒ４：72％ Ｒ５：78％ Ｒ６：83％ ）

イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率をＲ９年度も 80％以上で維持する。（Ｒ４：85％ Ｒ５：88％ Ｒ６：88％ ）

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力向上に取り組む。

ア　大学入試改革に対応するだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICT を活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会のある授業を推進する。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」肯定率をＲ９年度も 80％以上を維持する。（Ｒ４：82％ Ｒ５：83％ Ｒ６：88％）

イ　他校での先進事例の視察や、教育センター等が主催する研修への積極的に参加し、そこでの取組み内容を共有することで全教員の授業力向上を図る。

ウ　教員用タブレット PC と１人１台端末の導入により更なる ICT の有効活用について研究し、学びの充実を図る。

（３）生徒の資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価を行う。

ア　全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス）」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法は引き続き検討を重ねる。

３　心豊かでたくましい人間性を有する生徒を育成する

（１）他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア　授業、HR 活動などあらゆる教育活動を通して多様な人権課題を提示し主体的に学べる機会を設けることで、適切な人権感覚を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率をＲ９年度も 80％以上を維持する。（Ｒ４：78％ Ｒ５：81％ Ｒ６：84％）

イ　学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図ることで、他者理解の姿勢を育成する。

※学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率をＲ９年度も 90％以上を維持する。（Ｒ４：83％ Ｒ５：91％ Ｒ６：93％）

ウ　海外修学旅行、海外の学校との交流、海外語学研修等を通して、多様な言語や文化を体験し、国際的な視野を育成する。

（２）情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア　情報の授業において、専門家による講演等を実施し、生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ　１人１台端末の導入を受け、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT の有効利用など、教職員の情報に関する指導力向上を図る。

（３）生徒が安心して学校生活をおくれる体制を整え、基本的生活習慣の定着・改善を図るとともに、より高い規範意識を育成する。

ア　教職員が生徒に寄り添い、生徒が相談しやすい指導体制を構築し、生徒の安全・安心な場を確保する。

※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率をＲ９年度は 75％以上を維持する。（Ｒ４：74％ Ｒ５：75％ Ｒ６：79％ ）

イ　これまでの取組みを進めることで、基本的生活習慣（挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等）の改善・定着を図る。

※年間遅刻数をＲ９年度は 2000 回以下にする。（Ｒ４：2475 回 Ｒ５：2661 回 Ｒ６：2830 回）

４　地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進する

（１）本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域の方々に活動への理解を広げるとともに、魅力ある学校づくりを推進する。

ア　本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。

イ　HP の内容充実を図り、本校の魅力を発信することで、中学生や地域の方々に本校の教育活動への理解を広げる。

※HP の閲覧数の１日平均 900 を維持する。（Ｒ６　平均約 940）

ウ　保護者へのメール配信を定期的に実施し、連携を深める。

（２）地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア　授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ　裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

５　校務の効率化と働き方改革を推進する

（１）部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、勤務時間の短縮を図るとともに教職員間のよりよい人間関係を構築する。

※学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」の肯定率をＲ９年度には 80％以上をめざす（Ｒ４：80％ Ｒ５：74％ Ｒ６：55％）

（２）各分掌、学年での年間業務を整理し、校務の効率化を図ることで生徒と向き合う時間を確保する。

※学校教育自己診断（生徒）「先生は熱心に授業や部活動その他の仕事にあたっている」の肯定率をＲ９年度以降も 80％以上を維持する。（Ｒ４：82％ Ｒ５：89％ Ｒ６：83％ ）

府立刀根山高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年　月実施分]	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標［R６年度値］	自己評価
１ 生徒の夢と希望を実現する進路指導を確立する	（１）キャリア教育の充実とその具体化 ・３年間の進路指導計画の更新 ・主体的に進路を切り拓く指導の充実	（１） ・各種進路ガイダンスを展開し学年、学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・大学入学共通テストなど大学入試に関する最新の情報を整理し、生徒の主体的な進路決定を支援する。	（１） ・学校教育自己診断（生徒）「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率 90%［ 95% ］ ・学校教育自己診断（生徒）「HR などで進路についての情報を提供されている」肯定率 90%［ 96% ］	
	（２）チャレンジする力と粘り強さの育成 ア　行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施 イ「総合的な探究の時間」との連動 ウ　資格試験受験の奨励	（２） ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明する。また基本的な生活習慣、自学自習の姿勢を早期に確立できるよう支援する。 ・１年時から系統的な進路指導を進め、生徒・保護者向け進路講演会、ガイダンス等を着実に実施する。 イ・探究の授業でも自分の進路を考える機会を作り、夢や志の具体化を支援する。 ウ・1.2 年生全員が英検受験することで、英語に対する学習意欲をよりいっそう引き出す。	（２） ア・１年生２学期段階での平日・休日の自宅学習時間平日 60 分・休日 90 分[平日 41 分・休日 68 分]を確保する。 ・国公立及び関西難関私大への現役進学者数 100 人以上［ 103 人 ］ イ・第２学年の「総合的な探究の時間」で「進路の理解が深まった」肯定的率 65%［ 78% ］ ウ・実施後のアンケート「英語をより勉強したいという意欲の変化」（１・２年平均）肯定率 60%［ 65% ］	
２ 生徒が「確かな学力」を身につけられるよう教員の授業力向上を図る	（１）学習意欲の向上 ア　必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実 イ　論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成	（１） ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。 ・自宅学習課題を適切に出し、自学自習を支援する。 イ・各教科の授業の中で、ディベートやプレゼンテーションだけでなく、自分の考えをまとめてノートに記述するなどの時間も確保して「考え表現する力」を育成する。 ・特に探究の授業では、情報収集・討論・調査・まとめの活動を通してこれらの力の育成を図る。	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業は分かりやすい」肯定率 75%［ 83% ］ イ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率 80%［ 88% ］ ・第１学年の「総合的な探究の時間」に対する肯定的な評価 85%［ 88% ］	
	（２）授業力向上 ア　ICT を活用した効果的・効率的で興味を持てる授業の推進 イ　教育センター主催研修等の内容の全体への共有 ウ　教員用タブレット PC 導入による ICT の有効活用について研究	（２） ア・１人１台端末の授業での活用をすすめ、生徒の興味・関心を一層高める授業を推進する。 イ・10 年経験者研修等の取組内容を校内で共有し、職員研修として企画実施することで全体の授業力向上につなげる。 ウ・教員用端末や１人１台端末の効果的な活用方法に関する授業見学や研究協議を実施し、全体の授業力向上につなげる。	（２） ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心が持てるようになった」肯定率 80%［ 88% ］ イ・授業力向上に向けた職員研修と協議を年に２回実施する。［ ２回 ］ ウ・学校教育自己診断（教員）「コンピューターなどの情報機器が各教科の授業などで活用されている」肯定率 95%［ 91% ］	
	（３）多面的・多角的な学習評価の工夫 新学習指導要領に対応した観点別評価の実施	（３） ・観点別評価の検証に継続的に取り組み、効果的な評価が実施されるようにする。 ・観点別評価の中でも、特に主体的な学びの評価方法については各教科と学校全体での議論を継続して行う。	（３） ・学校教育自己診断（教員）「本校では評価のあり方について話し合う機会がよくある」肯定率 80%［ 67% ］ ・学校教育自己診断（生徒）「学習評価はテストの点数だけでなく、生徒の努力や取組みの姿勢を含めてされている」肯定率 85%［ 88% ］	

府立刀根山高等学校

３　心豊かでたくましい人間性を有する生徒を育成する	（１）他者理解と多様性の尊重 ア　多様な人権課題の提示 イ　各種行事への積極的な参加 ウ　国際交流等による国際的な視野の育成	（１） ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような様々な人権課題を提示する。 イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。 ウ・海外修学旅行、海外語学研修、訪日した高校との交流、国際交流関係講座などを実施する。	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率 80%［ 84% ］ イ・学校教育自己診断（生徒）「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率 90%［ 93% ］ ウ・海外修学旅行、海外研修等に参加した生徒へのアンケートで「海外に対する興味・関心が高まった」肯定率 80%［ 100% ］	
	（２）情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実施 イ　情報社会への対応	（２） ア・SNS 等の利活用について、教科「情報」の授業において、専門家による講演を行う。 イ・１人１台端末の導入に伴い、情報部主導で教職員の専門性を高めるための研修を実施する。	（２） ア・１年生対象に専門家による講演を１回以上、実施する。 イ・学校教育自己診断（教員）「本校では生徒の個人情報保護の体制が確立している」 肯定率 90%［ 91% ］。	
	（３）安心できる学校生活の確保 ア 教育相談体制の充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	（３） ア・教育相談委員会が中心となり生徒情報の共有に努め、必要に応じてＳＣの指導助言や外部機関と連携することで、教育相談体制の一層の充実を図る。 イ・基本的な生活習慣の定着のため、これまでの遅刻指導を継続して実施する。	（３） ア・学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」 肯定率 70%［ 79% ］ イ・遅刻数の目標値以下を実現する。 2500 件以下［ 2830 件 ］	
４　地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進する	（１）本校の教育活動の積極的な情報発信 ア　教職員による中学校訪問 イ　HP の充実による魅力の発信 ウ　定期的なメール配信による保護者との連携強化	（１） ア・本校教職員による中学校訪問を行い、本校の取組みや生徒の状況を共有することにより、中高相互の理解や連携を深める。 イ・各種ブログの更新を早めるなど、新たな情報が多数提供されている HP にする。 ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者に知らせする。	（１） ア・夏休み前後に教職員が一定数以上の入学者のある中学校を訪問する。［ 31 校 ］ イ・HP の閲覧数の１日平均 900 を維持する。［ 940 ］ ウ・学校教育自己診断（保護者）「学校のメールマガジンを活用している」肯定率 85%［ 90% ］	
	（２）地域との交流・連携の推進 ア　地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進 イ　裏山を活用した環境教育の推進と地域交流	（２） ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動を支援する。 イ・裏山等の刀根山の特徴を活かした地域連携を推進する。取組み状況等を随時、HP 等にて紹介し、本校の魅力を積極的に発信する。	（２） ア・学校教育自己診断（教員）「本校では近隣の学校や地域などとの交流の機会がある」 肯定率 70%［ 79% ］ イ・年間を通して、地元公民館等の主催する行事に協力する。生物エコ部の活動と連携させて、全校生徒にも裏山の恩恵を還元する。	
５　校務の効率化と働き方改革を推進する	（１）校務の効率化と働き方改革の推進 （２）各分掌、学年の年間業務の整理	（１） ・全教職員で協力して顧問を分担することで、生徒の部活動を保障する。 ・部活動方針（休養日等）を遵守する。 学校一斉定時退庁日を確実に実施する。 ・働き方改革の観点から、諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図り、健康増進につなげる。 （２） ・学校経営委員会主導のもと、学校の進むべき方向を見定め、各分掌の役割を整理し業務を見直すことで校務の効率化につなげる。	（１） ・学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動や部活動が十分にできる環境が整っている」 肯定率 80%［ 83% ］ ・年間における休養日 105 日以上の確保。 学校一斉退庁日の実施 100%をめざす。［ 100% ］ ・学校教育自己診断（教員）「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合える職場の人間関係ができている」 肯定率 80%［ 55% ］ （２） ・学校経営委員会を定期的に開催して、学校の課題を検討し、効率化できる業務を全体に提案してできるところから着手する。	